

2018年2月15日(木) ハコラク3月号 掲載

医療の現場から『輸血に不可欠、臨床検査』

検査科 羽根川 立人 副技師長

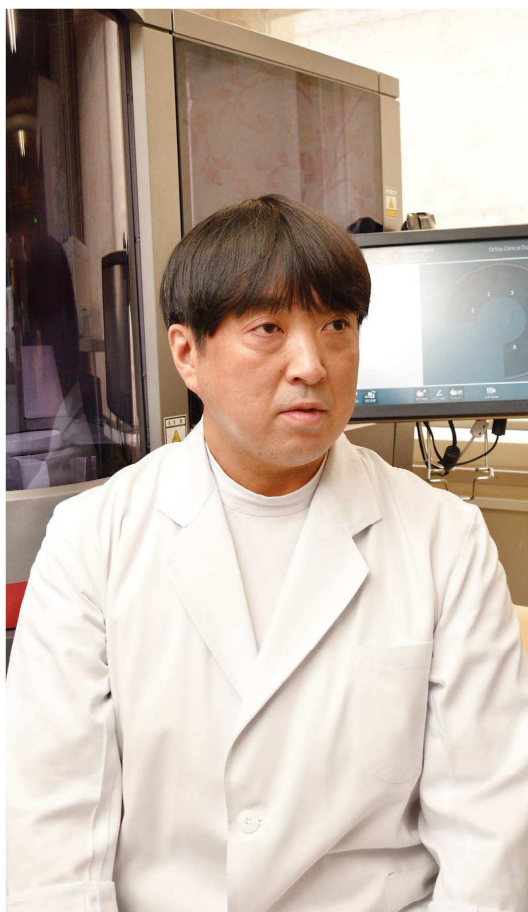
医療の現場から

## 輸血に不可欠、 臨床検査

函館中央病院

検査科 副技師長

羽根川 立人さん



「輸血」とは出血、病気、手術などで血液成分の減少や機能が低下した場合に血液成分を補充する治療法のことです。副作用を防ぎ安全な輸血を行うことが最重要となります。当院では赤十字血液センターから赤血球製剤・血漿製剤・血小板製剤を購入し、輸血検査室の専用保冷庫・冷凍庫で厳密な温度管理のもと保管しています。輸血の依頼があると在庫を確認し、不足分は赤十字血液センターから取り寄せます。輸血に使われる血液は全て献血によって提供された善意の貴重な血液です。

安全な輸血を行うために臨床検査技師が「血液型」「不規則抗体」「交差適合試験」という検査を行います。

「血液型」はA B O式とRh式を調べます。日本人のA B O式の割合はA型4割、O型3割、B型2割、A B型1割と言われています。Rh式の場合は十と一があり、一は200人に1人しかいません。この他にもボンベイ型、亜型、キメラ型、モザイク型など、大変珍しい型もあります。「不規則抗体」は赤血球の表面に存在する数百種類の血液型抗原から副作用を起こしやすい抗体の有無を調べる検査です。不規則抗体には、過去の輸血や妊娠などでできた免疫抗体と、産生原因が不明な自然抗体があります。これらが見つかった場合はその抗体と反応しない血液を選びます。そうして選んだ輸血用血液は最後に「交差適合試験」を行います。これは輸血用血液と患者様の血液を混ぜて副作用の原因となる反応が起こらないかを調べる重要な検査です。交差適合試験の結果が陰性ならば適合血として輸血が行なわれます。

これが一般的な輸血の流れですが「自己血輸血」と言い、手術を行う際に患者様の血液を事前に必要量採血しておき手術時に使用する方法もあります。私たち臨床検査技師は安全な輸血が行なわれる一助を担っております。



函館中央病院

函館市本町33-2 ☎0138-52-1231(代) <http://www.chubyou.com/>

■診療科目／内科、消化器内科、腫瘍内科、循環器内科、小児科、外科、整形外科、形成外科、  
心臓血管外科、皮膚科、産婦人科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科など全24科目  
■受付時間／8:30~11:30、13:30~16:00※土曜は午前のみ。診療科や時間帯によっては要予約。  
■休日／日曜・祝日・年末年始・開院記念日(6月第1水曜)